

コシヒカリの品質・収量向上は健苗の適期移植から

1 育苗作業計画 長い育苗期間は老化苗の原因

- 早生は5月10日頃までに、「コシヒカリ」は高温登熟を防止するために5月10日以降に移植できるように移植予定日から逆算して浸種日程やは種計画を立てましょう。
- 露地プール育苗は低温条件で活着が劣ることや、4月の低水温でマット形成が不良となることあるため、4月20日以降のは種とするか、保温効果の高い被覆資材を使用する等の対策を行いましょう。

表1 育苗スケジュールの例（加温出芽の場合）

育苗様式		育苗日数	浸種		催芽	は種	田植え
稚	ハウス	20日	4/13	(10日間) →	4/23	→ 4/25	→ 5/15
苗	露地プール	25日	4/8	(10日間) →	4/18	→ 4/20	→ 5/15
中	苗	30~35日	4/3	(10日間) →	4/13	→ 4/15	→ 5/15~5/20

2 種子消毒 温湯消毒のみでは防除効果は不十分です。

- 温湯消毒だけでは、「褐条病」や「ばか苗病」の防除効果が十分でないため、微生物農薬との体系防除を徹底しましょう。
- 細菌性病害（「褐条病」、「もみ枯細菌病」、「苗立枯性細菌病」等）に対しては種子消毒だけでは十分な効果が得られないことが多いため、体系防除を実施しましょう。

3 浸種 初日の水温は10℃未満にしない。今年のコシヒカリの浸種は12℃以上をめやすに行う。

- 浸種は通常水温 10℃~15℃で積算水温 100℃をめやすに行いますが、本年の休眠が深いと推定される「コシヒカリ BL」や、休眠が深いことがある「つきあかり」については、浸種水温 12℃以上で積算水温 120℃をめやすとし、発芽揃いを良くしましょう。
- 特に、浸種初日の水温が10℃未満の低水温の場合、発芽ぞろいが悪くなるので注意しましょう。
- 浸種は必ず水道水か井戸水を用い、水量は種子 1kg に対して約 3.5リットル確保しましょう。

4 催芽 ハト胸状態で終了。芽を伸ばしすぎない。

- 30℃で1~2日をめやすに80%以上のもみがハト胸状態になったら終了です。
- 30℃を超えると、細菌性病害が出やすくなりますので、注意しましょう。



5 は種 薄まきで、健苗を育成しましょう。

- は種量は右表を参考にしてください。厚まきは軟弱徒長苗や育苗障害の原因に、極端な薄まきはマット形成不良の原因となります。



催芽もみ 120g

160g

180g

品 種	育苗様式	1箱当たりは種量	
		乾もみ	催芽もみ
コシヒカリ	稚苗	130~140g	160g~175g
こしいぶき	中苗	80~100g	100g~120g
つきあかり	稚苗	145~155g	175g~190g
みずほの輝き	中苗	90~110g	110g~135g

6 育苗管理 こまめに温度を確認しましょう。

- 緑化期~硬化初めは、ヤケ苗等の育苗障害が起きやすい時期です。
- 日照がある日は、被覆資材内及びハウス内の温度が急激に上がるので、被覆資材の除去やハウスの換気を十分に行いましょう。

(1) 出芽期

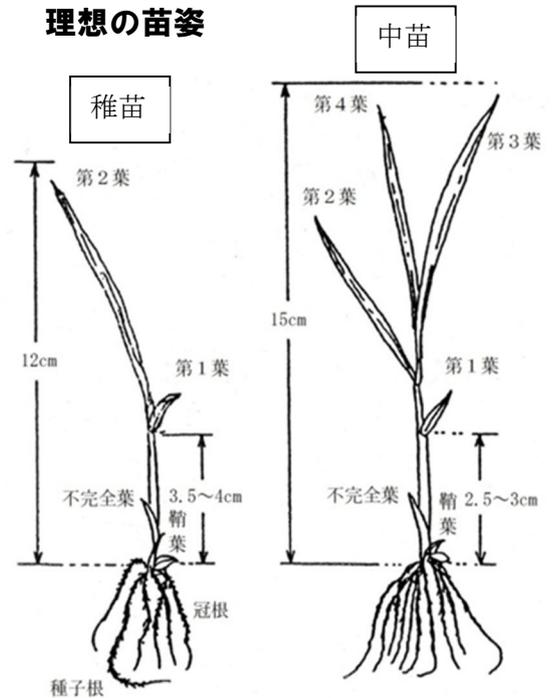
- 稚苗で加温出芽の場合、30℃、2～3日で出芽長が0.5～1.0cmになれば出芽は完了です。
- 中苗の場合は30℃、1～2日で出芽長0.5cm未満がめやすです。
- 出芽長が長すぎるとその後も徒長しやすくなるので注意してください。

(2) 緑化期

- 出芽直後の苗は、急激な気温の変化や強い光に弱く、緑化には弱い光が適しています。
- 被覆資材で遮光するとともに、日中は20～25℃になるように管理します。
- **10℃以下になると伸長が止まるので、低温時は二重被覆するなど保温管理に努めましょう。**
- **ハウス内が25℃以上の場合や好天で気温が上がりそうな時は、換気を行いヤケ苗の発生を防止しましょう。**

(3) 育苗後半(硬化期)

硬化日数のめやす	稚苗	ハウス 14 日間
	稚苗	露地 18 日間
	中苗	22 日～25 日間



葉齢 2.0～2.3 葉 育苗日数 20 日間	葉齢 3.5 葉 育苗日数 30～35 日
----------------------------	--------------------------

育苗様式	管理ポイント (温度・水管理等)
稚苗・中苗ハウス	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第1葉の葉鞘が、稚苗は3.5～4.0cm程度、中苗では2.5～3.0cm程度になったら、被覆資材を完全に除去します。 ① <u>温度管理：日中15～20℃、夜間10～15℃（8℃以下の低温にしない）</u> ② 硬化期前半 <ul style="list-style-type: none"> ・午前中早めにハウスの換気を始め、夕方には閉める。 ・かん水は朝に充分行き、原則夕方には行わない。（床土が乾いた場合のみ、かん水する） ③ 硬化期後半 <ul style="list-style-type: none"> ・田植え5～7日前からは夜間もハウスを開放する。（ムレ苗を防ぐため異常低温時はハウスを閉め、8℃以下にしないよう注意する。） ・乾燥の具合を見ながら1日2回かん水を行う。
露地プール	<ul style="list-style-type: none"> ① 無加温・露地プール育苗では低温による出芽遅延や苗揃い不良の懸念があるため、除覆前は保温に努める。また、降雨後は酸欠とならないよう、被覆資材の上やプール内にたまった余分な水を排除する。 ② <u>緑化終了後（葉齢1～1.2葉期頃）から湛水を開始する。</u> <u>最初は苗箱の床土面まで湛水し、水深が浅いところで箱底から1cm以下になったら、苗丈の半分くらいまで湛水する。</u> ③ 除覆、湛水後は苗が伸長しやすいので水温の上昇に注意し、必要に応じて水の更新を行う。 ④ <u>霜注意報等、異常低温が予想される時は速やかに床土より上まで湛水する。</u> ⑤ 育苗箱を軽くするため移植2日程度前から落水する。
その他の中苗	<ul style="list-style-type: none"> ○ トンネル折衷様式の場合、裾換気は1.5葉期頃から開始する。高温時には被覆を除去、夜間は保温資材を覆って保温する。 ○ 二重平張り様式の場合、1～1.5葉期に有孔ポリを除去し、夜間や低温時に被覆する。 ○ 降霜(低温)・強風時には湛水して苗を保護する。 ○ 3葉期は不織布を除去し、苗の硬化に努める。 ○ 苗質は育苗前期の管理に左右されるところが大きいため、第1葉鞘長を抑え、第2葉・第3葉の伸長を短くする。